

「2010年度活動方針案」

1. 基本方針

- 2年目を迎え、2011年度のIPDC実用化が目前と迫り、具体的なサービス検討や実装に関する動きがより活発化する時期でもあり、そうした動きに対してフォーラムという公的な立場で貢献していく目的から、旬なテーマに関する情報提供、標準化の手前での技術検討、会員間での意見交換の機能をより強化していくことを本年度の重点テーマとしていく。

- 具体的には昨年度に引き続き、
 - ・勉強会
 - ・シンポジウム
 - ・技術検討部会の3活動について、以下のとおり、より活動を強化するとともに、調査部会を改め、新たに
 - ・テーマ毎に自由に開催できるコミュニティスペース（仮称）という活動形態を取り入れるものとする。

- その他、周辺情報の収集を充実するとともに、フォーラムとしての発信力を強化する。

2. 勉強会について

■開催頻度

- ・ 頻度を増やし、2か月に1回定例開催とする（毎回2時間程度）
- ・ 具体的には、5月、7月、9月、11月、1月、3月の計6回開催を予定する

■対象

- ・ 全会員
- ・ 非会員（有料） ※問い合わせがあった場合のみ有料にて対応（昨年同様）

■開催内容

- ・ 毎回、有識者を招き、旬な話題についての講演を基本とする
- ・ その他、会員が自社の成果（たとえば新製品情報等）を発表できるような場を設ける

■運営方針

- ・ 幹事持ち回りでコーディネーターを担い、取り上げるテーマの偏りをなくし、かつ、当事者の目線でより旬な話題をタイムリーに取り込むことを心がける。

[具体的には]

5月は事務局にてコーディネート、それ以降については、7月、9月、11月、2月、3月のコーディネートを幹事の皆様をお願いしたく。詳細につきましては別紙（2010年度のスケジュール）をご確認ください。

3. シンポジウムについて

■開催頻度

- ・年1回開催、秋頃を予定

■対象

- ・全会員
- ・非会員（無料）
- ・マスコミ、招待者

■開催内容

- ・総務省後援で開催、年1回の祭典として業界内に認知、位置づけを図る
- ・政府関係者、著名人などを招き、IPDCに関する旬な話題について、講演、パネルディスカッション等を開催
- ・展示スペースを設け、IPDC関係の出展も募集する

■運営方針

- ・シンポジウム実行委員会を組織し、勉強会等とは並行し準備活動を行う
- ・勉強会担当に該当しなかった幹事には実行委員会に参加いただき、各種ご協力いただく
- ・なお、フォーラムの認知度強化も兼ね、広範囲な広報宣伝活動を行う

4. 技術検討部会について

■開催頻度

- ・ 適宜開催（概ね1月に1回程度、その他メーリングリスト上での開催など）

■対象

- ・ 希望する会員
- ・ なお、本部会は参加会員による積極的なコントリビュートを前提とする

■具体的活動方針

①昨年度とりまとめを行った「IPDCコンテンツ、サービス設計時のガイドライン」をベースに、実サービスとして展開するに辺り必要となる既存のサービスフレームワーク（OMA-BCAST、DVB-IPDC など）とのマッピング、及び不足している機能の洗い出しを行う。

②また、ここでの議論を踏まえ、OMA で開始される BCAST 2.0 , ARIBでの標準化作業等に対して積極的に発言を行っていく。

■運営方針

- ・ 上記の目標を達成するために、適宜にWGを（任意数）設置することが出来ることとする
- ・ WGにはリーダーを置くこととする
- ・ リーダーはWGの活動を所掌する
- ・ リーダーの選出は、同部会内で相談の上、部会長が指名する

5. テーマ毎に自由に開催できるコミュニティスペース（仮称）

■目的

- ・ フォーラムに関係のある旬なテーマについて、検討を希望する会員または事務局の発意にもとづき、自由に開催できる意見交換の場である
- ・ 意見交換の内容については、フォーラムとして何ら拘束力を持つものではない
- ・ テーマ毎に開催する場であって、常設開催ではなく、アドホック的な開催形態とする

[補足]

- ・ 本制度は、昨年度の調査部会を引き継ぎ、より会員間での意見交換の活性化を狙いとしたものでもある
- ・ また、サービス検討部会という常設化の可能性も検討したが、実際にはテーマ毎に行う方が実態に則していると考えられる
- ・ さらに、部会のもとで各テーマ毎の場を設けた場合、屋上屋的なこととなり、結果的に煩雑化する懸念があった
- ・ ついてはこうした柔軟な開催形態を提案するものである

■開催頻度

- ・テーマ毎に全く自由（任意）

■対象

- ・全会員

■運営方針

- ・会員であれば誰でもテーマを発案することができる
→ただし発案者は主体者となって取りまとめを行う
- ・事務局は開催をサポートする
→については発案者は事務局と相談の上、開催を呼び掛ける
- ・開催形態としては、リアル会合以外にもネット会議（メールベース）も可能とする
- ・テーマによっては特定の外部識者あるいは外部機関との連携も可能とする
- ・会議の議事録については会員のみOPENにするものとする

■現時点で想定されているテーマ例

- 例1 ホワイトスペースに於けるIPDCの利用に関する勉強会（菊池准教授からご提案）
- 例2 マルチメディア放送に於ける委託・受託事業者のIPDC設備区分に関する意見交換（事務局提案）

6. 調査・リサーチ機能について

- ホームページやメルマガ等については、これまで会合開催案内や資料のアーカイブがメインであったが、それ以外にも関連周辺情報の収集や会員からの要請に基づく情報発信などの機能を強化する。
- さらに、技術検討部会やコミュニティスペースでの検討や意見交換を活性化する目的から、同部会等からの調査要請に基づき、各種調査・リサーチを行い、会員に対して積極的に発信していく。
- このため、昨年度の調査部会の時と同様に外部委託による調査・リサーチ体制の継続を図る。

7. その他

- 半年に1度程度の頻度で交流会を開催し、会員間の懇親を深める。（会費制）
- 前述のとおり、ホームページの活用範囲を広げ、情報発信力を高める。
- あわせて、広報宣伝活動を積極化させ、フォーラムの認知度向上に務める。
- 他関連機関（例えば、幹事の皆様が別にご入会されている組織等）とのコミュニケーションについて引き続き強化していく。